「豊かなかごしまの自然遺産」収集保管事業

南北600kmの広さを持ち亜熱帯から冷温帯までの自然環境のある鹿児島県は，全国でもここでしか見られない自然の宝庫です。博物館では収集保管事業をとおして，県内各地の豊かな自然を広く県民に紹介できるように，資料を収集しています。今回は奄美大島と霧島における昆虫分野の報告をします。

奄美大島は亜熱帯の気候帯であり，なおかつユーラシア大陸との接続・分断の地史を持つために独特な生きものが生息しています。アマミカラスアゲハは県本土のカラスアゲハとは別種であり，オキナワカラスアゲハの奄美亜種とされています。分類が混迷しており，今後も変更される可能性があります。

アマミカラスアゲハ

また，奄美大島にはミヤコグサというマメ科植物が本来分布していなかったのですが，近年公園の芝生に見られるようになりました。これは県本土から運んだ芝生を植える際に一緒に持ち込まれたと考えられます。この植物を，ヒメシルビアシジミというチョウは食草として利用しています。人の手によって生じたこの変化が，ヒメシルビアシジミの食性の進化にどのような影響を及ぼすのか，非常に興味深い現象です。

ミヤコグサとヒメシルビアシジミの卵

霧島は国立公園に指定されており，特に特別保護区に関しては昆虫の採集が規制されています。博物館では環境省の許可を得て，昆虫の調査を行ってきました。大浪池にはブナが生え，この地域を南限とするフジミドリシジミがすんでいます。2011年に噴火した新燃岳の影響をあまり受けなかった大浪池が，降灰を受けた高千穂峰方面とどのように異なっているのか，調査を続けてきました。平成28年３月からの企画展では，この成果を発表します。

博物館ではこれからも，地域の自然を調査・研究して，広く紹介する努力を継続していきます。

フジミドリシジミ

移動博物館（奄美市・牧之原養護学校）を開催して

平成27年12月10日から13日まで奄美市名瀬において，12月17日から18日まで牧之原養護学校において，それぞれ移動博物館事業「博物館がやってきた」を開催しました。

県内唯一の自然史系博物館である本館は鹿児島市にあるために，遠方の方はなかなか訪問できません。本館では県内各地を訪問し，収蔵品を運び入れ，来場者に鹿児島の自然を紹介しています。平成７年から始まった本事業は，これまでに延べ65会場にて開催しています。

主な展示は「鹿児島の天然記念物」「身近な動物のはく製」「世界の昆虫・鹿児島の昆虫」「フィリピンと鹿児島の貝」「生徒理科研究展の優秀作品」などです。また，奄美大島では「郷土の自然紹介」として，地質・植物・動物・昆虫について奄美の自然を紹介しました。

牧之原養護学校での実験

観覧のみならず，さまざまな体験も移動博物館では充実させており，液体窒素を用いた「とほうもなく冷たい世界」では，マイナス196℃という世界で起きる現象を体験してもらいました。また，「ヘビに触ろう」のコーナーは，子供だけでなく大人の方にも大人気でした。その他学校に出かけ授業を行う「自然紹介授業」や，星空観察会，自然観察会も開催しました。

県立博物館ではこれからも県内各地に出かけて，鹿児島の自然を紹介していきます。